時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に揭ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘〇一箇月　前金五十錢〇三箇月　前金壹圓四拾五錢〇六箇月　前金貳圓八拾五錢〇一箇年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末一切休刊セズ）

●●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一	日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津	一箇月	金拾三錢
二	南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國	一箇月	金六拾錢
三	北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋	一箇月	金三拾錢
四	香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲	一箇月	金六拾五錢
五	露領浦鹽斯德、淸國諸港	一箇月	金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●●●●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐること尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる塲合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

第八議會

前期の議會は廣嶋に開設せられて名譽の歷史を留めたりしに今また同じく戰爭中本日を以ていよ／＼第八議會を召集するに至れり本議會は臨時會と同じからざるが故に種々の議論も起ることならん中にも豫算案は初期以來紛爭の一大原因たりしことなれば議事の進行に就て或は窃に懸念するものある樣なれども國家の前途は猶は悠々たる時日の存するあるに反して軍國の大事は現に眉睫の間に懸りつゝある今日なれば先づ其急なるものを大切として務めて妨害を避け夫の紛爭の種となる可きものは都て戰後に讓りて萬事落着の上、積る思を心の儘に發露す可し蓋し靜なるもの決して動かざるに非ず動くもの亦決して靜ならざるに非ず一靜一動たゞ國家の緩急と相俟ちて其宜しきを失はざることそ我帝國議會の世界に對して重きを成す所以なれば國民の第八議會に向て期望する所は大波瀾にもあらず大改革にもあらず悠然迫らざるの中に威を存じて以て遠征軍に聲援を與へ以て國家の大業を翼贊するの一事に外ならざれば議會も必らず爰に見る所ありて其進行極めて靜謐無事なる可きは我輩の想像して敢て疑を容れざる所なり議會にして此の如くなれば政府とても亦濫りに喧擾を買ふの法案を提出することなかる可く雙方ともに謹愼を守るときは議會は定めて閑却の感あることならん隨て世の論者或は會期を短縮す可しと云ふ者あれども我輩の所見は未だ然らず前記の如く紛爭を釀す可き諸問題は勿論深く忌む所なれども其他の議事に至ては決して一年を等閑に經過す可らざるもの少なからず假令ひ戰爭中にもせよ一切他事を拋擲して顧みざるが如きは是れ愼重にはあらで狼狽の姿にして帝國議會の品位を傷くるものと云はざるを得ず唯議事の畛域を愼み議す可きは宜しく議するを憚らずして後年に模範を埀る可きのみ況んや開會中人民の議會に請願するは憲法上の權利なるに會期短縮は直ちに人民の請願權を妨ぐるものなり云々との法律論もあることなれば議事にして速に結了せば休會することゝ定め徹頭徹尾他日の歷史の爲めに完全無缺の所爲に出でんことを敢て希望するものなり

占領地に定期航海を開く可し

占領地の區域は第一軍及び第二軍の兩方面とも追々廣くなりて海上の實權も既に我有に歸したるに就ては日本郵船會社は此間に定期航海を開き運輸交通の便を謀る可しと傳ふる者あり我輩の至極贊成する所なり今や遠征の將士は砲烟彈雨の間に立ちて血を流し骨を摧き具に辛酸を閱しつゝあるその上に冱寒凛冽たる滿州胡天の風雪と戰ひ言語に名狀す可らざるの困難を冒して猶能く連戰連捷の功を奏することなれども運搬の不便よりして糧食被服ともに充分なるを得ず一枚の襯衣、一粒の梅干も珍重貴ならずとは實に察するに餘りあることにして天下の識者と共に日々紙上の報道に對して常に斷腸の思に堪へざる所なれば吾も人も恤兵の情を表せんが爲め金圓物品を醵出し又は醵出せんと欲せざるはなけれども運搬不便の爲め容易に目的を遂し難しと聞きて何れも不如意を歎せざるはなし勿論軍隊には兵站部あり御用船ありて全力を傾けて需に應ずるの今日なれども一々兵站部を煩はさんよりは成るべく其手數を省きて輸送を便にすることそ本意なれば此際民間より定期航海を開始するは實に國民一般の希望なる可し隨て一旦開始の上は貨物も定めて多かる可きのみならず我軍の仁慈なる到る處に人民を綏撫して文明の模範を示すが故に兵燹に罹りたる者共もれなく歸服して其本業に安堵するの風なりと云へば我國より彼地に至りて商賈を營むも決して不安心はなかる可く爲めに商品の積荷も少なからざるを得可し聞く所によれば戰地にては物價非常に高くして往々我軍人を窘むるよし以ての外の事にして此の如きは臨時に制裁を設けて不當の利を貪らしめざるやう當局者の注意ありたき所なれども暫く別問題として兎も角も軍需の供給を充分ならしめ且つ日本人の商店に於て廉價に賣ることゝもならば競爭上自然に一般の物價を低落せしむるの好都合もある可しかた／＼航海業者に取りて決して積荷の乏しきを憂へざる可きのみか好し大に利益なきにもせよ甚だしき損毛を被らざる限りは斷じて實行に着手すべし蓋し此事たる啻に會社の利害のみならず實に國家の榮譽にして戰勝の光と相俟て世界を照し日本國民の義勇にして敏活なるを示すに足るものなれば差向き大東大連の航路を開て以て第一軍及び第二軍の便に供せんことを我輩の郵船會社に向て大に促す所のものなり或は船舶欠乏の今日なれば船繰云々の事情もあらんなれども之を繰合せて都合の付かざる筈はなかる可きに何故に遲々として決行せざるや窃に惑ふ所なき能はざるなり

雜報

○閣員會議　一昨日歸京したる伊藤總理大臣は昨朝來官邸に在りて來客に接し居たりしが正午頃より陸奥外務大臣來訪、談話に時を移す內、追々に各大臣來會し午後三時ごろより內閣會議を催したりと云ふ

○議員集會所の對議會方針　一昨日午後一時より議員集會所にては總會を開き第八議會に對する方針を改進黨の宣言書に基きて左記の如く決せり

議員集會所の第八議會に對する方針

軍國多事の今日に方りては當局者をして內顧の憂なからしむるの必要あるのみならず亦戰爭終結後は廣く財政全部に涉りて整理するの必要あり故に吾人は茲に左の決議を爲し第八議會に臨むの方針を定む

一、議會と政府との衝突を來すべき內政上の問題は本期限り成るべく之を提起せざる事

一、比年衝突の原因となりたる豫算問題に付ては吾人は本期限り姑く成案を提出するを見合せ政府をして自ら冗費節約の實を擧げしむる樣盡力すべき事

一、租税の增減を生ずべき法律案は本期限り成るべく之を提出せざる事

一、震災救濟、水害補助、治水、鐵道其他國家必要の事業は財源の許す限り之を實行する事

一、憲法上の大義と人民の權利とに關する問題は軍國多事なるの故を以て其擁護伸張を怠るべからざる事

○議員集會所の政務調査分擔　議員集會所は一昨日の總會にて政務調査の分擔を左の如く定めり

外務部（鳩山和夫、波多野傳三郎、四宮有信、小原金治、井深幹、橋本久太郎）

軍務部（嶋田孝之、小琢狩元凱、市嶋謙吉、太田孫次右衛門、名倉次、森本確也）

內務部（角田眞平、西村與太郎、佐々木松坪、高田早苗、高橋小十郎、廣住久道、村上芳太郎、丸尾文六）

學務部（高木正年、中野武營、福田久松、森格之助、武市彰一、久保田右作）

產業部（岡村貢、鈴木仙太郎、松嶋廉作、野口代治、奥館貞造、濱岡民夫、阿部興人、中山平八郎）

財務部（鹿嶋秀麿、肥塚龍、嶋村成達、田邊久磧、內藤久寬、宮季次郎、田中正造、大北作次郎、內山政治）

遞信部（嶋田三郎、和田方正、尾崎行雄、井上彥左衛門、箕浦勝人、首藤陸三）

○加藤公使の出發　倫敦駐在の公使加藤高明氏は一昨夜八時二十分新橋發の汽車にて橫濱に赴き同港に一泊、昨日午前十時過ぎ加奈太郵船に搭じて出發したり公使が新橋を發する時、見送人山の如く黑田、陸奥、榎本の三大臣、英公使トレンチ氏、大鳥樞密顧問官を始め朝野知名の人々塲內を埋めて餘地なきまでに集り公使の乘車、出發する時は加藤公使萬歲の聲破るゝが如くなりし

○炭坑浸水　本月十四日午後十一時三十分頃山口縣厚狹郡須惠村字築嶋炭坑內南部炭坑第十番口邊陷落同炭坑全部に潮水浸入のため坑內に在りし男五人、女二人行方不明と爲れり多分石炭採掘に從事中、溺死したるならんと云ふ

○千嶋の冬季航海　千嶋諸嶋は例年の如く最早航海の杜絶するに至りしが北海道廳にては來年一月中函館なる若松忠次郎氏の汽船濟德丸を以て冬季航海を

爲さしむる事と爲りたる趣にて其

提の三嶋を巡航するなりと云ふ

○京都電氣鐵道工事　同市

の發起に係る京都伏見間及び京都

鐵道は此程既に第一期線なる京都

着手しレールの敷設を畢りて目下

着手したるが伏見京都間の分は本

功し三十一日を以て試運轉を爲し

業を開始することに決したるよし

過半土地買收を畢り線路に沿ふ道

通り畢りたれば遠からず工事に着

覽會開設迄には竣功せしむる見込

○元山港大豆輸出景況　元

に關し同地駐在帝國二等領事上

十八日附を以て左の如く其筋へ

大豆は當國咸鏡道物產の重要部分

より本邦への輸出品中に於ても亦

品の輸出貿易は從來全く本邦商估

港以來漸次其數額を增加せしも輸

進步を顯したるは實に明治二十年

して爾來年の豐凶に依りて輸出上

らざれども現時に至りては本品の

は重大の關係を有するものと謂ふ

に就きて明治二十年より同二十六

輸出額を見るに即ち左の如し

二十年	四一、二〇八	廿三年	一三六、三
廿一年	七七、四七四	廿四年	一三六、九
廿二年	一二〇、八五九	廿五年	一四〇、

右等の大豆は當咸鏡道に於ける各

ざるの地なしと雖も就中其最も重

文川郡、永興府、定平府、高原郡、咸

して端川府に至るの間なり而して

府及明川府等の地方よりも多少產

ども本品貿易上當港と切要の關係

府及二郡と爲せり

本年の新大豆も既に開市の期に

起色を呈するの時節と爲れり依

する數項を列記し以て當業者の

大豆產出の期節　本品產出の期は

中旬頃より出荷するを以て通例

輸送し來るものは本港接近の地

の各村或は定平以南の各邑にし

自身に運搬するの習慣にて則ち

石を一纏にして駄牛又は人背に

ことあり然れども稍々遠隔の地

ため重に小船の運漕に依らざる

北の地方は翌年三月より四月に

ることも多しと云ふ

當業者の說に據れば本地近傍の

部咸興地方の生產に比すれば稍

山、仁川兩地の產品に比較する

め隨て大坂地方の相塲も概して

價を保つと云ふ而して其種類も

すれば黃豆、靑豆、薄淡黑豆の三

本年の收穫　本年の收穫は前年と

何は未だ十分の調査を得ざれども

察すれば本年の輸出は無論多額

員の報道する所に據れば其通過

地商業會議所より北部吉州まで

作にして其最上作なるものは大

他の雜穀中稍々不作と見らるゝ

まるのみ又各種穀物の平均步合

しも昨年に比すれば概して優等

と一般の傳唱する所とに就きて

稷は先づ十分の出來榮と謂ひて

本年の相塲　本品の相塲は總て大

とするものにして本年該地の相

の方なるに附き本港に於ける價

騰せざるを待ざるべし茲に本年

○[illegible]時刻　[illegible]發（下り）午前[illegible]時四十五分（橫須賀直行）、六時二十分（急行）、七時三十分（橫須賀直行）、八時五分（急行）、八時五十分（急行）、九時二十五分、十時二十分、十一時（急行）、十一時四十五分（急行）、午後十二時三十五分（橫須賀直行）、一時五十分、二時三十分（急行）、三時二十五分、四時十分（急行）、四時五十分、五時五十分（急行）、六時四十分、[illegible]時五分（急行）、九時[illegible]、十一時十[illegible]

[illegible]發（上り）午前五時二十六分、七時十分、九時四十分、十一時五分、午後一時十分、[illegible]時四十分、四時十五分、六時三十五分、九時二十五分

○橫濱橫須賀間發車時刻　橫濱發（下り）午前六時四十五分、七時十分、八時三十分、十時二十二分、午後十二時三十[illegible]分、一時三十五分、三時二十[illegible]分、五時、六時四十分、八時三十五分（新橋直行）、●橫須賀發（上り）午前五時四十分、[illegible]

[illegible]分、八時三十八分、十一時五十八分、午後三時九分、六時二十三分

○東海道鐵道發車時刻　新橋發（下り）午前六時二十分（神戸迄）八時五十分（大垣迄）十一時四十五分（神戸迄）、午後二時三十分（濱松迄）四時十分（静岡迄）九時五十五分（神戸迄）●静岡發（下り）午前六時（神戸迄）八時四十五分、（神戸迄）午後十二時二十七分（神戸迄）二時四十五分（大垣迄）[illegible]

[illegible]分（神戸迄）、午後十二時[illegible]分（神戸迄）、[illegible]八時五十分（大府迄）十一時四十五分（[illegible]）[illegible]（上り）午前五時四十分（大府迄）[illegible]